

高校地理における都市計画からみた身近な地域教材の開発 —広島平和記念資料館および平和記念公園を事例として—

高 田 準 一 郎

Teaching City Planning of a Local Area in High School Geographical Education : A Case Study of the Hiroshima Peace Memorial Museum and Park in Hiroshima City

Jun-ichiro TAKATA

Abstract

The purpose of this paper is to develop teaching materials on city planning of a local area. The author analyzed “Geography B” textbooks used in senior high school, and has found that none of the textbooks deals with the line of flow and the axis of a city in city planning. Therefore the author proposes a teaching plan on a case study of the Hiroshima Peace Memorial Museum and Park in Hiroshima City, which was designed by Kenzo TANGE. He conceived of the Hiroshima Peace Memorial Park as part of an urban vista, laid out the axis running between the Peace Boulevard and the Atomic Bomb Dome, and ingeniously elevated the Hiroshima Peace Memorial Museum to keep the axis unobstructed. The teaching plan will be useful for understanding the design of a public space in Hiroshima City.

Key words

High School Geographical Education, City Planning, Hiroshima City, Kenzo TANGE, Teaching Materials

1. はじめに

本稿の目的は、都市域の公共空間を都市計画の視点から探究する身近な地域教材の開発にある。身近な地域教材なので、本稿で扱う都市計画は、都市域の建造物や建築物などをモノとして捉えるスケールを対象とした。このスケールは、地域調査で扱える可視的なレベルのものといってもよい。したがって、都市域の構造物群による都市景観に加えて、都市計画における道路形態に関わる動線や、軸線構成¹⁾に関わる都市軸²⁾などが、都市域の公共空間を探究するための重要な概念となる。

本稿では、可視的に捉えられる都市域の公共空間を読解するための概念として、動線や都市軸を導入し、これらの概念を活用した具体的な授業案を提案したい。高校地理では、都市計画に関わって、動線や都市軸を概念として提示し、具体的な実践事例として扱ったものは、きわめて少ない³⁾。しかし、よりよい都市を考えるためには、都市計画に関わる基盤的な概念の理解が前提

※ E-mail takata@ha.shotoku.ac.jp

となる。人々の動きを捉える動線や都市的なあり方を規定する都市軸への着目は、都市計画の考察には欠かせない。これらの概念は、防災的な視点からみても、きわめて重要である。そこでまず、丹下健三の広島計画案に着目し、この計画案に盛り込まれた動線や都市軸の概念について考察しておきたい。次いで、動線や都市軸に着目した高校地理の具体的な授業案を提示したい。

戦後の建築界において丹下健三は、モダニズムを牽引した卓越した建築家であった⁴⁾(日経アーキテクチュア編, 2005, p. 4)。しかし、丹下の本領は、単体の建造物や建築物の設計や様式にとどまるものではなかった。丹下の特質は、都市計画的な視点で、建造物や建築物を配置し、構造化したことにあつたといえる。丹下にとって、建造物や建築物を考えることは、都市そのもののあり様を考えることと同義といってもよかつた。

1949(昭和24)年の広島平和記念公園公開コンペ(広島ピースセンターコンペ)で、丹下は実質的なデビューを果たしている。丹下の計画案では、原爆ドーム(旧広島県産業奨励館)と広島ピースセンター(広島平和記念公園)とが、明確に関連づけられて、配置されていた⁵⁾。丹下は、都市計画的な視点で、動線に加え、都市軸の視点から建造物や建築物を整え、構造物の配置や構造に意味を与えたのである。

広島平和記念公園公開コンペでは、丹下の計画案が一等案となった。しかし、当初は山下寿郎の計画案が一番人気であった。審査側の議長であった岸田日出刀が丹下案を推し、決選投票で辛くも丹下の計画案が当選した経緯があつた。(高田, 2013, p. 5)

二等となった山下の計画案では、原爆ドームと関連づけた構造物の配置や構造は、意識されていなかった。三等の計画案も同様であった。ここに、丹下の広島ピースセンターが、単に造園的な構成にとどまらない、他の計画案になかつた都市計画的な視点をもった特異なものとして浮かび上がってくる。

丹下の計画案は、新しい時代の到来を予感させるに十分であつた。原爆ドームからの軸線上に建造物を配置するとともに、その軸線を受け止めるように建築物を配置した計画案は、明快な軸線構成をもつものであつた(日経アーキテクチュア編, 2005, p. 152)。この計画案は、周辺地域を動線や都市軸で接合し、平和記念都市の拠点となる新たな象徴としての公共空間を創出することにあつた。

つまり、この計画案は、都市という枠組みのなかで、単体の構造物を軸線構成により景観的に関連づけ、それぞれに意味を与えようとする試みであつた。戦後、戦災復興院の委嘱を受けた丹下は、広島復興計画のための基礎調査と土地利用計画に参画している。このことに言及して丹下は、次のように回顧している。

都市再建にあたって私たちが考えたことは、ここを平和記念都市として創り上げるということであり、多くの議論のあと、爆心地であつた中島地区を公園として整え、そこを平和公園とし、そこに原爆被爆者を記念する平和施設をつくるということ、市の中央を東西に走る100m道路を平和大通りとして建設して都市再建のシンボルにするということであつた。(SD編集部, 1980, p. 4)

丹下の計画案は、広島平和記念公園公開コンペの該当地区となつた中島だけではなく、平和大通り(百メートル道路)などの周辺地域も含んだ包括的なものであつた。したがって、広島平和記念公園という公共空間の考察にあたっては、動線や都市軸の視点からの読解が重要な意味をも

つ。高校地理の地域調査でも、動線や都市軸の活用は、きわめて有効に働く。

2. 都市形態や都市景観に関わる学習内容

新学習指導要領（平成21年版）のもとで、高校地理の教科書も新たに改訂された。平成25年度採択用の高校地理の教科書「地理B」は、2社2教科書の発行となった。ここでは、教科書「地理B」において、本文のほか、図版や写真、資料などに、動線や都市軸などの記載があるのかどうかを確認したい。

表1は、教科書「地理B」における村落・都市に関わる内容構成をみたものである。これらの教科書「地理B」では、現代世界の系統地理的考察で、都市の学習内容が扱われる。都市の学習内容となる都市計画は、都市形態や都市景観とも密接に関連する。しかし、都市計画は、都市問題に関連させて、田園都市構想や大ロンドン計画などの事例に言及するのが一般的で、新たに改訂された教科書もこのような構成を踏襲している。動線や都市軸などへの言及は、本文のほか、図版や写真、資料などにおいてもみられない⁵⁾。

表1：高校教科書「地理B」における都市に関わる内容構成

発行者の番号・発行所	教科書の記号・番号	書名	部(編)・章	節・項	図版・写真・資料など
46・帝國書院	地B 301	新詳地理B	第II部 現代世界の系統地理的考察 3章人口、村落・都市	3節村落と都市	
				1 集落の成り立ち	(略)
				2 村落の形態と機能	(略)
				3 都市の機能と生活 (pp.176-178.)	・図版：①世界の大都市と都市人口率〔統計地図〕 ・写真：②海水浴客でにぎわうニース（フランス） ・写真：③聖地エルサレム（イスラエル） ・図版：④エルサレムのようす ・写真：⑤キャンベラの計画的な市街地（オーストラリア） ・図版：①シカゴの都市機能 ・図版：②都市の地域分化モデル ・図版：③都市の内部構造のモデル
				4 日本の都市 (p.179)	・図版：④ドイツと日本の政治・経済機能の分布 ・図版：⑤東京都への集中
技能をみかく 地形図の利用（6） ～新旧比較～ (pp.180-181.)	・地形図：①門前町から県庁所在地へ〔新旧地形図5万分の1「長野」〕 ・地形図：②宿場町・門前町・漁村から工業都市へ〔新旧地形図5万分の1「東京西南部」「横浜」〕				
		4節都市・居住問題			
				1 世界の都市・居住問題	・図版：①世界の大都市と各国・地域の都市人口増加率〔統計地図〕

				<p>(pp.182-189.)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図版：②おもなプライメートシティの人口がその国の人口に占める割合（おもに2007年） ・写真：③渋滞するペキン（北京）市内の道路（中国） ・写真：④フィリピンのスラム（マニラ） ・写真：①メキシコシティのスマッグ ・図版：②マニラの住宅地区 ・図版：③メキシコシティの人口増加 ・写真：④マニラ郊外のごみ処分場（フィリピン） ・写真：⑤ストリートチルドレンのための学校（カンボジア） <p>-----</p> <p>コラム：高山都市メキシコシティにおける都市環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図版：①メキシコシティの地形（模式図） ・図版：②メキシコシティの住宅地区と風の流れ <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図版：③再開発が進むベルリンの中心部（ドイツ） ・図版：④マルセイユのインナーシティ（フランス） <p>-----</p> <p>トピック：見直される公共交通機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図版：①パークアンドライドのしくみ <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真：②ラ・デファンス地区の再開発（パリ） <p>-----</p> <p>コラム：早くから発生したロンドンにおける都市問題と再開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図版：③ロンドンの周辺 ・図版：④ドックランズの再開発（ロンドン）
			2 日本の都市・居住問題 (p.190)	<ul style="list-style-type: none"> ・写真：①造船所跡を再開発した東京都江東区豊洲地区 ・図版：②東京都江東区・新宿区の人口 ・図版：③東京都多摩市の人口ピラミッド ・写真：④住宅地の中の耕地（東京都、小平市）
			□地球的課題の追究□ 新しい都市交通～日本を例に～ (p.191)	<ul style="list-style-type: none"> ・写真：⑤住宅地の狭い道も走行できるコミュニティバス（東京都、武蔵野市） ・図版：⑥都道府県別のコミュニティバスの運行路線数 ・図版：⑦乗用車の販売台数とハイブリッド車が占める割合 ・写真：⑧低床車両が導入されている路面電車（富山県、富山市）
130・二宮書店	地 B 302	新編詳解地理 B	第Ⅱ編 現代世界の系統地理的考察 第3章 人口と村落・都市	<p>第2節 村落・都市</p> <p>1 さまざまの規模の集落 (略)</p> <p>2 村落の立地と形態 (略)</p> <p>地理的機能 村落の機能と形態を読む (略)</p> <p>3 都市の発達と変容 (pp.152-155.)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真：① 囲郭都市（ドイツ・ネルトリンゲン） ・図版：② 湧水帯に沿う都市〔イタリア北部の地図〕 ・表：③ 都市機能からみた都市例 ・図版：④ 道路網からみた都市の形態

				<ul style="list-style-type: none"> ・ 図版：[5] ヨーロッパとアメリカの垂直的な都市景観 ・ 図版：[6] パリの市街地の拡大〔パリの地図〕 ・ 写真：[7] 迷路型のイスラムの都市（モロッコ・マラケシ） ・ 写真：[8] 計画都市（ブラジル・ブラジリア） ・ 図版：[9] 都市構造の型 ・ 写真：[10] 千里ニュータウン（大阪府） ・ 写真：[11] ロンドンの中心街シティ（イギリス） ・ 図版：[12] アメリカ北東岸のメガロポリス〔地図〕
			4 都市・居住問題と解決への努力 (pp. 156-157.)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真：[1] インドのスラム（ムンバイ） ・ 図版：[2] おもな都市の人口推移〔グラフ〕 ・ 写真：[3] 太陽光発電を行っているサッカー場（ドイツ・フライブルク） ・ 写真：[4] パリ郊外の再開発地区ラ＝デファンス（フランス）
			5 世界の中の日本 日本の村落・都市の課題 (pp. 158-159.)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図版：[1] 日本の過疎地域〔統計地図〕 ・ 写真：[2] シャッターが閉められたままの県庁所在地の中心部 ・ 写真：[3] 古い町並みを残し世界文化遺産に登録された石見銀山の景観保全（島根県大田市大森） ・ 写真：[4] 歴史ある町並み保全で観光客の誘致をはかる佐原（千葉県香取市佐原）

（注：集落や村落に関わる図版・写真・資料などは略した。〔 〕内は筆者による補足。筆者作成）

以下、内容構成を具体的にみてみたい。教科書「地理B」では、都市形態や都市景観の学習内容の取扱いはある。しかし、都市形態や都市景観の学習内容は、道路網からみた都市形態の概念図や、ヨーロッパと北アメリカとを比較した模式的な都市景観図の説明にとどまり、具体的な都市計画への言及には至っていない。二宮（2013）では、道路網からみた都市形態の概念図に言及して、次のような説明を与えている。

パリやモスクワの道路網は放射同心円型であるが、これは1500～1800年ころの国家建設の時代に、道路の中心に宮殿や記念碑などをおき、国家の首都としての威厳と美観をもたせようと建設されたものである。（p. 153）

また、二宮（2013）では、ヨーロッパと北アメリカとを比較した模式的な都市景観図を提示して、垂直的にみた地域的な差異に着目し、次のような説明を加えている。

ヨーロッパでは、中心部に高くない建物が密集し、郊外に高層ビルが建設されている。これはヨーロッパでは歴史的景観を保存しようとする意識が強く、景観をそこねる高層ビルの建設を認めていないからである。（p. 153）

以上のように、概念図や模式図に言及した記述内容は、都市形態や都市景観の背景にある歴史的な営為の概括的な説明にとどまっている。帝国（2013）は、「写真：②ラ・デファンス地区の

再開発（パリ）」（表1）を掲載しているものの、軸線構成への言及はなされていない⁶⁾。

地域調査での活用でいえば、教科書「地理B」の学習内容に、着目できる具体性がないわけではない。二宮（2013）は、小項目で「パリにみる都市の拡大」をとりあげ、城壁に着目して、発展の経緯を説明している。しかし、城壁は、単にモノとしての城壁の扱いにとどまっている。したがって、なぜ、歴史的景観を保存しようという意識が強いのか、なぜ、高層ビルの建設は、景観を損ねると考えているのか、この城壁を通して解き明かされるわけではない。

このような問題の探究には、動線や都市軸などの見方や考え方を導入すればよい。動線や都市軸は、身近な地域の地域調査でも実践的に活用できる。そこで本稿では、動線や都市軸などの概念を導入し、都市計画の視点から都市域の公共空間を探究するための地域教材を提示したい。地域調査で実践的に使える学習内容があって、教室の内（教科書）で得た知識は、教室の外（現実の都市）でも実際に活用できるものとなる。

3. 都市計画の視点から都市域を探究するための授業案

表2は、動線や都市軸などの概念を導入し、都市計画の視点から都市域の公共空間を探究するための具体的な授業案を示した。科目は「地理B」で、身近な地域の地域調査を、「村落・都市」の単元に組み込み、単元全体で8時間を配当した。授業案は、「都市の変容と都市計画」で、2時間分を本時案として提示した。授業案では、広島平和記念公園を中心にした都市域の公共空間を事例とした。

授業案では、四つの予想のある問題を設定した。課題レポートは、研究の扱いとした。問題は、いくつかの選択肢で構成される。したがって、選択肢を選んだ理由をめぐっての議論や討論も期待できる。問題の検証は、地形図（市街図）や写真などの教材資料のほか、説明などで行う。

授業案では、広島平和記念公園の探究を踏まえ、都市と都市計画のあり方を伝統的な視点や防災的な視点から再考し、かつての西国街道（山陽道）や新たな平和大通りのもつ意味を考察する。加えて、都市域の変容過程を踏まえ、公共空間のこれからのあり方と関連させて、賑わいの創出など、街づくりの新たな可能性の展望に目標をおいた。

4. 授業の展開と教材資料の考察

ここでは、表2の授業案に提示した問題の設定による授業の展開と、地形図（市街図）や写真などの教材資料について説明を加えておきたい。考察にあたっては、授業案に即して見ていきたい。

導入部分では、図1の現行「広島」地形図（平成25年発行）と図2の「最新広島市街地図」（昭和5年発行）とを比較し、広島平和記念公園となっている場所が、戦前は、どのような場所であり、また、戦前から戦後にかけて、どのように変容したのかを把握する。

〔問題1〕では、図1を提示し、広島平和記念公園にあたる二等辺の三角地は、戦前（原爆が投下される前）は、どのような場所だったのか、周囲の様子を手がかりにして予想する。

表2：単元計画と本時の目標、授業案

1. 単元計画
 - 単元名：村落・都市
 - 単元の授業計画（配当時数）
 - 1）村落の立地と形態（2時間）
 - 2）都市の成立と発達（2時間）
 - 3）都市の変容と都市計画（2時間：本時案）
 - 4）村落・都市の課題（2時間）
2. 本時の目標
 - 1）動線や都市軸の視点から都市域の公共空間の考察を深め、人々の動きや都市的なあり方を規定する都市計画がもつ意味を探究する。
 - 2）都市と都市計画のあり方を歴史的な視点や防災的な視点から再考し、かつての西国街道や新たな平和大通りのもつ意味を考察する。
 - 3）都市域の変容過程を踏まえ、公共空間のこれからのあり方と関連させて、賑わいの創出など、街づくりの新たな可能性を展望する。
3. 本時の授業案における問題の設定と学習内容（2時間）

	学習活動	問題の設定	指導上の留意点
導入	○図1の現行地形図と図2の「最新広島市街地図」（昭和5年発行）とを比較し、広島平和記念公園となっている場所が、戦前は、どのような場所であり、戦前から戦後にかけて、どのように変容したのかを把握する。		○広島平和記念公園となっている場所を、戦前と比較する際には、周辺の場所と関連づけて、どのように変わったのかに留意させたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された図1の現行地形図「広島」（平成25年発行）で、広島平和記念公園のある場所を確認する。 ・広島平和記念公園のある二等辺の三角地は、戦前（原爆が投下される前）は、どのような場所だったのか、周囲の様子を手がかりにして予想する。 	<p>〔問題1〕図1は、現行地形図「広島」（平成25年発行）で、広島平和記念公園を中心にみたものです。広島平和記念公園は、戦後、公開コンペで採用された丹下健三の計画案によって造られました。この記念公園のある二等辺の三角地は、戦前（原爆が投下される前）は、どのような場所だったと思いますか。</p> <p>予想</p> <p>ア 県庁や合同庁舎、税務署などのビルが立ち並ぶ官庁街であった。</p> <p>イ 商店街や映画館、カフェなど人々で賑わう繁華街であった。</p> <p>ウ 江戸期に浅野藩がお茶会のため造園した回遊式庭園があった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図1の現行地形図「広島」（平成25年発行）を提示し、広島平和記念公園のある場所が、二等辺の三角地であることを確認させたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された図2の「最新広島市街地図」（昭和5年発行）で、二等辺の三角地の場所は、中島本町などであったことを確認する。寺社がかなりの密度で分布していたこと、郵便局や住友銀行などがあったことも確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・図2の「最新広島市街地図」（昭和5年発行）を提示し、二等辺の三角地の場所は、中島（元安橋の周辺）とよばれる繁華街であったことを伝え、次の説明を加える。江戸期の広島を中心は、猫屋橋や元安橋の周辺、雲石街道が分岐する堺町であった。当時は、橋のたもとで、物資が集散され、商業地として発展していた。また、当時は、河川一本に橋一本という規制がかかっていた。廻船は、橋のたもとまで入港できた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された写真1から、原爆 		<ul style="list-style-type: none"> ・写真1を提示し、広島平和記

	<p>が投下された後の広島の様子や、広島平和記念公園の建設当時の状況などに思いを馳せてみる。</p>		<p>念資料館（当時は、広島平和記念会館原爆記念陳列館）の前に、墓地の墓石群が立ち並んでいたことを伝え、次の説明を加える。原爆が投下によってこれらの墓を守る人もいなくなって、多くは無縁仏となっていた。生き延びた人々は、焼け跡から拾った身元不明者の遺骨を集め、二等辺の三角地のあちこちに盛って塚とし、無縁仏の霊を慰めた。</p>
展開 1	<p>○広島平和記念公園計画案を考察し、江戸期に整備された西国街道が残された意味について探究する。</p>		<p>○広島平和記念公園計画案を考察する際には、動線に着目させ、西国街道に接続する周辺の間所と関連づけるよう留意させたい。</p>
	<p>・江戸期に整備された西国街道（山陽道）は、丹下の計画案では、残されたのかどうかを予想する。</p>	<p>〔問題2〕広島平和記念公園のある二等辺の三角地となっている場所には、江戸期に整備された西国街道（山陽道）が走っていました。この西国街道は、広島平和記念公園計画案では、どのようなになっていたと思いますか。</p>	<p>・図4を提示し、計画図の道路割で、西国街道と重なる部分を検証させたい。</p>
	<p>・提示された図4の広島平和記念公園計画図で、西国街道がほぼそのまま残され、東西につながる道路となっていることを確認する。丹下の計画案では、どのような理由で、西国街道が残されたのか、意見を交換する。</p>	<p>予想 ア 西国街道をほぼそのまま残して、東西につながる道路とした。 イ 西国街道を残さず、新たに造形した道路で、東西をつなげた。</p>	<p>・広島平和記念公園計画案で、西国街道が残された意味について、意見を交換させる。丹下の計画案では、なぜ、西国街道を残したのか、次の説明を加える。西国街道は、江戸期には、京坂への参勤交代や物資輸送のための主要街道であった。ただし、物資輸送は、ほとんど海上輸送で行われた。西国街道は、大坂から長崎に至る名として親しまれた。現在は、その大部分が国道2号線と重なる。</p>
展開 2	<p>○広島平和記念公園計画案は、都市という枠組みのなかで、単体の構造物を軸線構成により景観的に関連づけ、それぞれに意味を与えようとする試みであったことを探究する。</p>		<p>○広島平和記念公園計画案を考察する際には、軸線構成の視点から都市軸に着目させ、広島平和記念公園と、原爆ドームや平和大通りなどの具体的な関連性や接続性に留意させたい。</p>
	<p>・広島平和記念公園で、アーチ形の慰霊碑の前から、北側の方向に眼を向けると、どのように原爆ドームがみえるかを予想する。</p>	<p>〔問題3〕広島平和記念公園で、アーチ形の慰霊碑（慰霊堂）の前に立ち、原爆ドーム（旧広島県産業奨励館）のある方向を望むと、原爆ドームは、どのようにみえると思いますか。</p>	<p>・写真2で、前景の噴水から、広島平和記念資料館、祈りの広場、アーチ形の慰霊碑、平和の灯と続き、中景の原爆ドームに至る構造物は、平和大通りに対して、直交する直線軸に配置され、構造化されていることを検証させたい。</p>
	<p>・提示された写真2で、前景の</p>	<p>予想 ア アーチ形になった慰霊碑の中は空いているので、その中に原爆ドームがみえる。</p>	<p>・図5で、広島平和記念公園計</p>

	<p>噴水から中景の原爆ドームに向かって、施設中央の広島平和記念資料館、祈りの広場、アーチ形の慰霊碑、平和の灯と続き、そして、元安川を挟んだ原爆ドームなど、一連の構造物が、軸線構成の視点から見ると、直線軸に配置され、構造化されていることを確認する。</p> <p>・提示された図5で、広島平和記念公園計画案は、どのような設計過程があつて、構築されたものなのかを、動線や都市軸を踏まえて、追体験する。</p>	<p>イ 慰霊碑の右側に、慰霊碑と原爆ドームとが立ち並ぶようにみえる。</p> <p>ウ 慰霊碑の左側に、慰霊碑と原爆ドームとが立ち並ぶようにみえる。</p>	<p>画案は、どのような設計過程があつて、構築されたものなのか、次の説明を加える。まず、西国街道を残したこと。次いで、つづみ形（鼓型）の道路割を造形したこと。ここまでは、動線に関わるデザインともいえる。二等辺の三角地の西側には、車線の動線を設けている。そして、原爆ドームを起点とした平和大通りに直交する軸線を可視化し、都市軸として設定したこと。これにより、軸線構成の視点から見ると、構造物が直線軸に配置され、構造化されることとなった。動線に、都市軸に関わるデザインが加わった。広島平和記念資料館を中央に置いた三つの平和記念施設群は、平和大通りに沿って、配置された。百メートル道路ともよばれる平和大通りは、防災的機能をもたせた計画道路である。広島平和記念公園は、この計画道路に開かれた形で、接続された。また、平和大通りからは、原爆ドームに抜ける軸線を可視化させるために、広島平和記念資料館を空中に浮かせている。</p>
<p>展開 3</p>	<p>○丹下の都市の枠組みを見据えた広島平和記念公園の軸線構成は、戦時中の設計案でも使われていたことを踏まえ、戦後の日本復興に果たした都市計画のあり方を探究する。</p> <p>・広島平和記念公園計画案のもととなったル・コルビジェの建築作品は、どこの国の宮殿として設計されたものかを予想する。</p> <p>・広島平和記念公園計画案のもととなったル・コルビジェの建築作品は、旧ソ連の宮殿として設計されたことなどを踏まえ、都市計画的な考え方がもつ国際流動性を理解する。</p>	<p>〔問題4〕 広島平和記念公園は、丹下の計画案によって造られました。この計画案のもととなったのは、丹下が広島高校時代に出会ったル・コルビジェの建築作品にあったといわれています。この建築作品は、ある国の宮殿として設計されたものですが、どこの国の宮殿だと思えますか。</p> <p>予想</p> <p>ア イギリス イ フランス ウ 旧ソ連</p>	<p>○丹下が広島平和記念公園に、「未来の平和を祈る」と「過去の犠牲者を慰霊する」の二つの機能を与えたことを踏まえ、都市計画をどのように考えるか、留意させたい。</p> <p>・広島平和記念公園計画案のもととなったル・コルビジェの建築作品は、旧ソ連の宮殿として設計されたものであったことを伝え、次の説明を加える。この計画案道路割は、つづみ形（鼓型）のデザインが骨格となっている。丹下は、このつづみ形を、戦時中のコンペ「大東亜建設記念営造計画」でも使っていた。このつづみ型は、丹下が広島高校時代に出会ったル・コルビジェの建築作品、旧ソ連の宮殿「ソビエトパレス」であった。</p>

	<p>・広島平和記念公園が、戦後の日本がどのような方向に向かうのか、世界に向けてアピールした記念碑的なものとなったのは、都市計画的な視点で建築を提案するアプローチ性にあったことを捉える。</p>		<p>・戦時中、体制を支持するコンペで名を馳せた丹下には、批判の声が多かった。とくに、広島平和記念公園計画案は、丹下の「転向」と解釈され、この計画案がもつ都市性については、国内では、むしろ逸脱として批判にさらされた。しかし、広島平和記念公園は、戦後の日本がどのような方向に向かうのか、世界に向けてアピールした記念碑的なものとなった。現在、欧州では、都市計画的な視点で建築を提案するアプローチへの再評価が高まっている。</p>
終結・発展	<p>○広島平和記念公園に関わる都市計画的な視点からの探究を踏まえ、旧広島市民球場の跡地利用について、活性化プランを提案する。</p> <p>・旧広島市民球場の跡地利用について、広島都市域の地域性などを調べ、都市計画的な視点から、具体的な利用計画案の課題レポートを作成する。</p>	<p>〔研究〕旧広島市民球場の跡地利用について、都市計画的な視点から、具体的な利用計画案を、課題レポートとして作成しなさい。</p>	<p>○旧広島市民球場の跡地利用について、広島平和記念公園に関わる都市計画的な視点からの説明を加え、広島都市域の場所性などに留意させたい。</p> <p>・広島平和記念公園に関わる都市計画的な視点からの探究を踏まえ、課題レポートを作成させたい。</p> <p>・都市計画的な視点から、次の説明を加える。軸線構成の視点からみると、原爆ドームの軸線上に、平和記念公園という「静」の場所と、旧市民球場などの賑わいのあった「動」の場所とがあった。</p> <p>・旧市民球場の跡地には、どのような開発計画がふさわしいかを考えさせたい。</p>

(筆者作成)

図2を提示し、二等辺の三角地は、中島(元安橋の周辺)とよばれる繁華街であったことを確認させたい。次いで、江戸期の広島を中心は、猫屋橋や元安橋の周辺、雲石街道が分岐する堺町であったことや、橋のたもとで、物資が集散され、商業地として発展していたことなど、また、河川一本に橋一本という規制がかかっていたが、廻船は、橋のたもとまで入港できたことなど、説明を加えたい。必要があれば、図3の「廣嶋市相生橋之景」(明治27年発行)で、当時の相生橋は、木造の橋梁であったことなども確認させたい。

さらに、写真1を提示し、広島平和記念資料館(当時は、広島平和記念会館原爆記念陳列館)の敷地には、墓地の墓石群が立ち並んでいたことを確認させたい。

原爆の投下によってこれらの墓を守る人もいなくなって、多くは無縁仏となっていた。生き延びた人々は、焼け跡から拾った身元不明者の遺骨を集め、二等辺の三角地のあちこちに盛って塚



図1：地形図「広島」2万5千分1（平成25年発行，部分，122.4%拡大，国土地理院，2003）



相生橋の風景

図3：廣島市相生橋之景（明治27年発行，石踊，2013b）

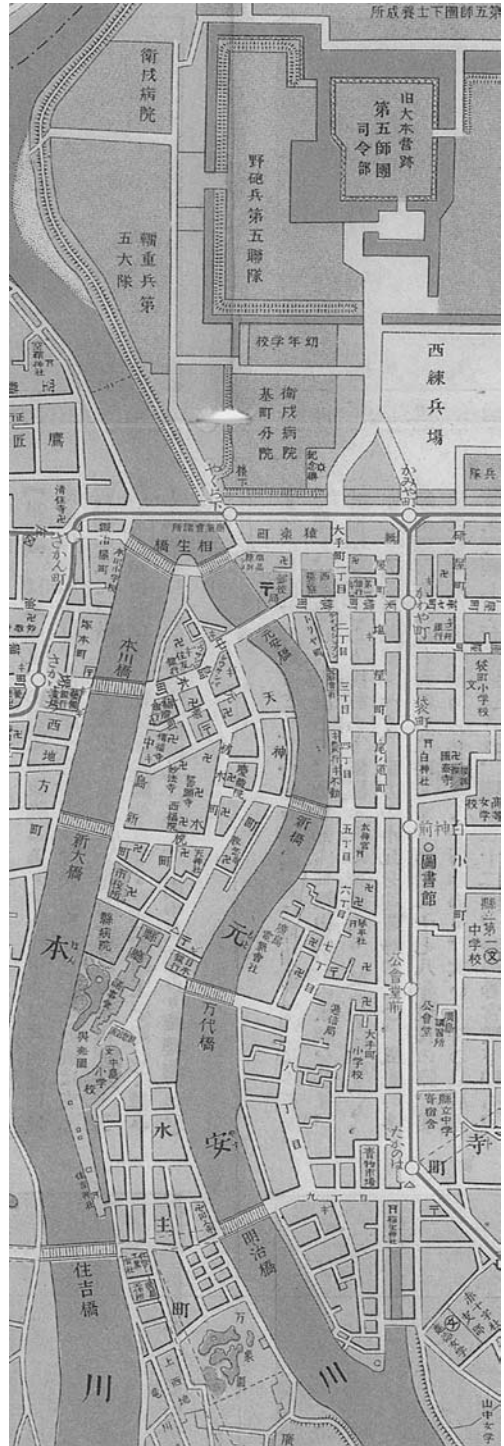


図2：最新廣島市街地図（昭和5年発行，石踊，2013a）

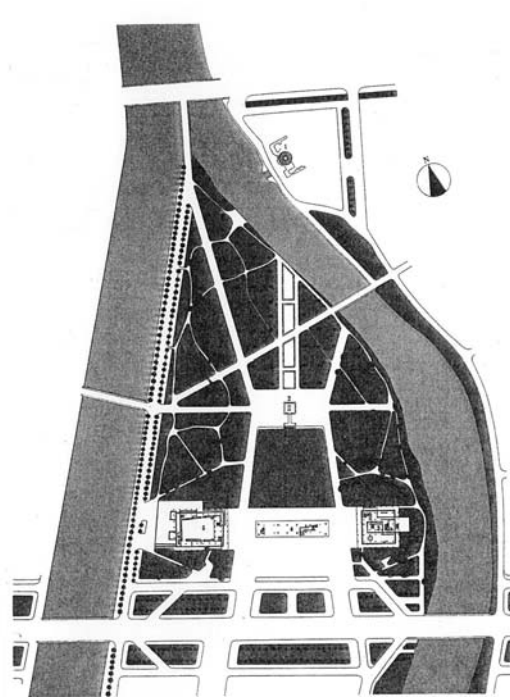


図 4 : 広島平和記念公園と平和記念施設
(SD 編集部, 1980, p. 5)



写真 1 : 広島平和記念会館原爆記念陳列館と墓地
(青井, 丹下健三撮影, 2006, p. 49)

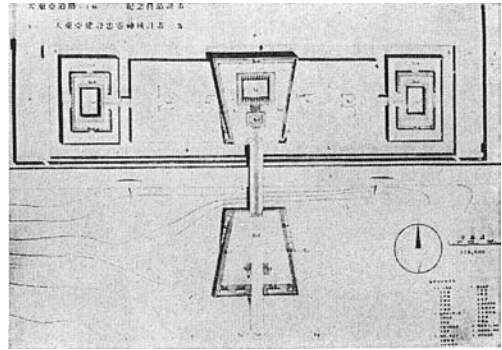
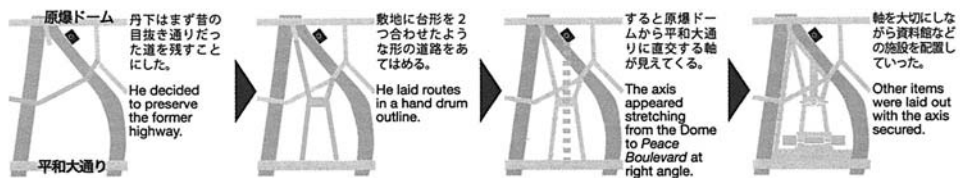


図 6 : 大東亜建設記念堂営造計画 (中, 1970, p. 49)



写真 2 : 南側からみた広島平和記念公園 (日経アーキテクチャ編, 村井修撮影, 2005, p. 11)



⚠ Be careful not to include bystanders in your photos wherever you are.

図 5 : 広島平和記念公園の設計過程 (高田, 2010, p. 8)

とし、無縁仏の霊を慰めている。なお、この写真は、丹下自身が撮影したものである。(青井, 2006, p. 90)

授業の展開は、[問題2～4]で構成される。展開1では、広島平和記念公園計画案を考察し、江戸期に整備された西国街道が残された意味について探究する。

展開1の[問題2]では、西国街道は、丹下の計画案では、残されたのかどうかを予想する。図4の広島平和記念公園計画図で、西国街道がほぼそのまま残され、東西につながる道路となっていることを確認させたい。この計画案では、西国街道が残された意味について、意見を交換させたい。どのような理由で、西国街道が残されたのか、丹下の『一本の鉛筆から』は、自伝的な著書だが、これに関わる言及はない。

展開2では、広島平和記念公園計画案は、都市という枠組みのなかで、単体の構造物を軸線構成により景観的に関連づけ、それぞれに意味を与えようとする試みであったことを探究する。

展開2の[問題3]では、広島平和記念公園で、アーチ形の慰霊碑の前から、北側の方角に眼を向けるとどのように原爆ドームがみえるかを予想する。写真2で、前景の噴水から中景の原爆ドームに向かって、施設中央の広島平和記念資料館、祈りの広場、アーチ形の慰霊碑、平和の灯と続き、そして、元安川を挟んだ原爆ドームなど、一連の構造物が、軸線構成の視点から見ると、直線軸に配置され、構造化されていることを確認させたい。

図5で、広島平和記念公園計画案は、どのような設計過程があつて、構築されたものなのか、説明を加えておきたい。まず、西国街道を残し、次いで、つづみ形(鼓型)の道路割を造形したことである。ここまでは、動線に関わるデザインともいえる。二等辺の三角地の西側には、車用の動線を設けた。そして、原爆ドームを起点とした平和大通りに直交する軸線を可視化し、都市軸として設定した。これにより、軸線構成の視点から見ると、構造物が直線軸に配置され、構造化されることとなった。動線に、都市軸に関わるデザインが加わったことになる。

また、広島平和記念資料館を中央に置いた三つの平和記念施設群は、平和大通りに沿って、配置されることになった。百メートル道路ともよばれる平和大通りは、防災的な機能をもたせた計画道路であった⁷⁾。広島平和記念公園は、この計画道路に開かれた形で、接続される。また、平和大通りからは、原爆ドームに抜ける軸線を可視化させるために、広島平和記念資料館を空中に浮かせた。(高田, 2010, p. 8)

展開3では、丹下の都市の枠組みを見据えた広島平和記念公園の軸線構成は、戦時中の設計案でも使われていたことを踏まえ、戦後の日本復興に果たした都市計画のあり方を探究する。

展開3の[問題4]では、広島平和記念公園計画案のもととなったル・コルビジェの建築作品は、どこの国の宮殿として設計されたものかを予想する。広島平和記念公園計画案のもととなったル・コルビジェの建築作品は、旧ソ連の宮殿として設計されたものであったことを踏まえ、都市計画的な考え方もつ国際流動性を理解させたい。

広島平和記念公園計画案での道路割は、つづみ形(鼓型)のデザインが骨格となっている。丹下は、このつづみ形を、戦時中のコンペ「大東亜建設記念造営計画」でも使っていた。図6で、つづみ形のデザインが確認できる。このつづみ形のアイデアは、丹下が広島高校時代に会ったル・コルビジェの建築作品、旧ソ連の宮殿「ソビエトパレス」にあった。(高田, 2013, p. 3)

戦時中に体制を支持するコンペで名を馳せた丹下には、批判の声も多かった。とくに、広島平和記念公園計画案は、丹下の「転向」と解釈され、この計画案がもつ都市性については、国内では、むしろ逸脱として批判にさらされている。しかし、広島平和記念公園は、戦後の日本がどの

ような方向に向かうのか、世界に向けてアピールした記念碑的なものとなった。(日経アーキテクチュア編, 2005, p. 8, p. 10, p. 153)

1951(昭和26)年、丹下は、国際近代建築会議(CICM)に招待され、「都市のコア」という会議のテーマに基づいて、広島平和記念公園(広島計画)を発表する機会を与えられている。次いで、1965(昭和40)年には、丹下の都市計画的な視点をもった設計案が、スコピエ震災復興コンペでの当選を果たした。現在、欧州では、丹下が提案してきた都市計画的な視点からのアプローチが再評価されている。(日経アーキテクチュア編, 2005, p. 8, pp. 152-153.)

終結・発展では、広島平和記念公園に関わる都市計画的な視点からの探究を踏まえて、旧広島市民球場の跡地利用について、課題レポートとして、活性化プランを提案させたい。提案にあたっては、都市計画的な視点から、説明を加えておきたい。

都市軸の視点からみると、原爆ドームの軸線上に、平和記念公園という「静」の場所と、旧市民球場などの賑わいのあった「動」の場所とがあったと考えられる。このように対比的に捉えると、旧市民球場の跡地には、どのような開発計画がふさわしいかがみえてくる。旧市民球場の跡地における開発計画には、平和大通りでみたような防災的な機能もあわせて考えてみたい。

5. おわりに

本稿では、都市域における公共空間を都市計画の視点から読解し、動線や都市軸を活用した具体的な授業案を検討してきた。広島平和記念資料館および平和記念公園の事例では、公共空間の動線や都市軸が、いかに重要な意味をもっているかが明らかとなった。ここでは、二点ほど補足しておきたい。一つは、防災的な観点からの都市計画への展開、もう一つは、これからの都市計画に関わる課題の捉え方である。

防災的な観点からみると、本稿で提案した授業案は、平和大通りに言及して、防災的な機能をもたせた計画道路であったと指摘するにとどまっている。しかし、この平和大通りが、防災的な機能をもった計画道路であることの意味は大きい。授業案では、平和大通りからは、原爆ドームに抜ける軸線を可視化させるために、広島平和記念資料館を空中に浮かせていること、これによって、広島平和記念公園は、この平和大通りに開かれた形で接続されたことを指摘した。このことは、同時に、広島平和記念公園が、平和大通りの防災的な機能を強化することになったことを意味する。このような防災的な観点からの都市計画を読解する展開である。

もう一つは、これからの都市計画に関わる課題の捉え方である。戦後の広島は、被爆都市ヒロシマとして語られてきた。広島平和記念公園は、戦後のヒロシマを象徴するモニュメントとしての役割を果たしている。一方、その後、広島平和記念公園の北側には、旧広島市民球場が建設された。丹下が直接関わることはなかったが、旧広島市民球場は、市民球団広島カープの活躍とともに、市民にとって、熱い広島の復興のシンボルとなった。

先にみたように、都市軸の視点からみると、原爆ドームの軸線上に、平和記念公園という「静」の場所と、原爆ドームのさらに北側に旧市民球場などの賑わいのあった「動」の場所とを対比的に捉え、場所性を中間項に、都市景観を読解することができる。旧市民球場の跡地における開発計画にあっても、これまでの歴史的な経緯に、文化的な要素を加えて、新たな場所性を構築する提案がなされてもよいはずである。この問題意識を、授業案の終結・発展では、レポート作成の課題とした。

おわりに、本稿で提案した授業案の学習内容に関わって、高等学校学習指導要領に言及しておきたい。高等学校学習指導要領の解説地理歴史編では、改訂の趣旨(改善の具体的事項)として、「地理B」について、「(前略)、世界の諸地域の地域的特色を歴史的背景に留意して多面的・多角的に考察させ、地理的な見方や考え方を培うことを一層重視する(文部科学省, 2010, p. 3)」と述べている。

世界の諸地域と表現されているが、日本の諸地域の地域的特色についても、歴史的背景に留意して多面的・多角的に考察させる重要性は、もとより変わっていない。本稿では、「地理B」の系統的考察に位置づく「村落・都市」の単元に、身近な地域学習を組み込み、歴史的背景を踏まえた授業づくりになっている。とくに、導入の〔問題1〕では、旧市街地図や写真などを活用して、歴史的背景を探究する学習内容を反映させている。

また、地域教材として開発したこの授業案は、身近な地域の地域調査の単元で活用する位置づけも可能である。授業案の導入から展開2まで、すなわち、〔問題1〕から〔問題3〕までは、広島平和記念資料館および平和記念公園で、実際に検証ができる内容になっている。したがって、本稿で提案した授業案は、「地理B」において、地域調査などの作業的、体験的な学習を取り入れる意味においても、活用できる有効性をもっていると考えられる。

付記

本稿は、平成25年度学術研究助成事業の助成金(基盤研究(C) 課題番号: 22531025, および基盤研究(C) 課題番号: 23531161)の一部を使用した。

注

- 1) 軸線構成を扱った授業案には、高田(2007)がある。ここでは、「富士見」を題材にした景観軸としての軸線構成をとりあげた。
- 2) 丹下(2011)は、「東京計画—1960」の都市計画案で、都心の概念を否定する新しい概念としての都市軸を提唱している(p. 87)。この概念は、「文明史的な、あるいは未来学的な立場に立った(丹下, 2011, p. 3)」なかで語られたもので、本稿における都市軸よりも、抽象度の高い概念として扱っている。
- 3) 長崎・相澤(1999)は、都市の見方・考え方で、まとまった論考を提示しているものの、都市計画における基盤的な概念についての言及はみられない。「災害の多い都市にとっては、生命と安全を守る都市づくりを早急に行う必要があり、そのための教育や防災訓練も当然必要とされる(p. 138)」という指摘にとどまる。また、「都市計画」ではなく、「都市づくり」のほか、「都市改造」の語句が多用されている。中村ほか(2009)は、地理教育体系の構築をめざした4巻からなる地理教育講座である。しかし、都市については、ニューヨークとパリ、北京の三つの事例の扱いはあるものの、都市を系統的に扱った項目はみあたらない。都市計画についても同様である。坂本(2013)は、村落・都市の単元の学習において、身近な地域調査学習もかねて実施した授業実践を報告している。しかし、スプロール現象など都市化の影響の指摘はあるものの、都市計画に関連づけた展開はとっていない。
- 4) 丹下が先駆的な都市性をもった建築を手がけた戦後から1970(昭和45)年までの期間は、日本の戦後復興から高度経済成長に至る時期にちょうど重なる。焦土からの復興と発展を目標に、建築界も公共建築が時代を牽引した(日経アーキテクチュア編, 2005, p. 152)。それだけに、都市域における公共空間を、丹下の都市計画的な視点から読解することは、地理教育にとっても意味がある作業だと考えられる。
- 5) 丹下は、広島ピースセンターに、「未来の平和を祈る」と「過去の犠牲者を慰霊する」の二つの機能を与えた。

(高田, 2013, p. 6)

- 6) 五十嵐 (2013) は、バリエーションを俯瞰した景観写真に「ヨーロッパの都市はモニュメントと軸線を効果的に配置している (p. 125)」との説明を与えている。これは、透視図法を基本に空間を構造化した近世以降の西欧都市の特徴を的確に表現している。
- 7) 戦後、復興計画にあった百メートル道路や広島平和記念公園建設構想は、浜井信三市長のもとで、実現が進んだ。しかし、浜井が三期目を目指した1955 (昭和30) 年の広島市長選では、百メートル道路の半分を市営住宅にする公約を掲げた渡辺忠雄が当選を果たしている。1959 (昭和34) 年に市長に返り咲きを果たした浜井は、さらに、水都広島にふさわしい骨格となる河岸堤防の整備など、防災的に意義のある都市計画事業を進めていった。(Wendy 広島, 2013, p. 3)

考察の対象とした高校教科書「地理 B」

帝国書院 (2013) : 片平博文ほか『新詳地理 B』帝国書院, 336p.

二宮書店 (2013) : 山本正三ほか『新編詳解地理 B』二宮書店, 319p.

文献

青井哲人 (2006) : 多くはうたかたに消え、いくつかは生きて地に降り。『10 + 1』No. 44, pp. 90-99.

五十嵐太郎 (2013) : 『おかしな建築の歴史』エクスマレッジ, 259p.

石踊一則 (2013a) : 昭和五年広島市街地図 (復刻版), あき書房

石踊一則 (2013b) : 明治二十七年改正實測広島市街全圖 (付: 廣嶋市内名所一覽) (復刻版), あき書房

SD 編集部編 (1980) : 平和公園と平和記念施設。『現代の建築家 丹下健三』鹿島出版会, pp. 5-9.

Wendy 広島 (2013) : 広島復興の礎を築いた男の物語。合人社グループ出版局, 2013年8月1日付, pp. 2-3.

坂本晋一 (2013) : いきいき教育実践 スケールを意識した都市・村落～センター試験に備えて～。『地理・地図資料』2013年度2学期①号, 帝国書院, pp. 11-14.

高田準一郎 (2007) : 身近な地域を調べよう—地図から地域を読む—。『中等教育研究開発年報』第20号, 広島大学附属中・高等学校中等教育研究開発室, pp. 22-26.

高田真 (2010) : 『広島建築』ver. 1, アーキウォーク広島, 31p.

高田真 (2013) : 読んで味わう広島の建築～生誕100周年・丹下健三と広島～。大人のための図書館セミナーレジュメ, A3判, 14p.

丹下健三 (1985) : 『一本の鉛筆から』日本経済新聞社, 250p.

丹下健三 (2011) : 『復刻版建築と都市デザインおぼえがき』彰国社, 188p. (作品頁分は除く)

中真己 (1970) : 『現代建築家の思想・丹下健三序論』近代建築社, 195p.

中村和郎・高橋伸夫・谷内達・犬井正 (2009) : 『地理教育講座』(全4巻) 古今書院, 993p.

長崎正・相澤善雄 (1999) : 都市の見方・考え方。井上征造・相澤善雄・戸井田克己編『新しい地理授業のすすめ方見方・考え方を育てる』古今書院, pp. 134-139.

日経アーキテクチュア編 (2005) : 『丹下健三時代を映した“多面体の巨人”』日経 BP 社, 205p.

二宮書店 (2013) : 山本正三ほか『新編詳解地理 B』二宮書店, 323p.

文部科学省 (2010) : 『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』教育出版, 169p.